

第8回「I Love 銀座 東京・銀座 で生まれた『スポーツ吹矢』」

「『スポーツ吹矢』の発祥地から吹矢の楽しさを共有する活動を行いたい」

これは今年1月、「一般社団法人スポーツ吹矢振興協会」（旧一般社団法人銀座スポーツ吹矢倶楽部）から「東京月島支部」を立ち上げた山崎英昭六段（上級公認指導員）の言葉ですが、青柳清は東京・銀座から「スポーツ吹矢」の普及を始めました。

青柳清は昭和53年（1975年）7月の株式会社ダイセイコー設立当初から東京・銀座に本社の本部を置いてきました。

東京・銀座は日本でも有数の地価の高い場所です。公的機関が公表している「土地の値段」には「公示価格」「基本地価」「路線価」の3つがありますが今年の調査では、その3つとも東京の銀座が15年連続でトップを独占しました。

言うまでもありませんが地価が高ければオフィスを借りても価格が高くなります。それを心配して青柳清が東京・銀座でダイセイコーを立ち上げようとしたとき「全国で書店経営するにしても本部は管理部門なのだから人口密集地にある必要はない」「わざわざコストのかかるところでなくてもいいのでは」というアドバイスもありました。

それでも青柳清が東京・銀座にこだわったのは何故でしょう。

青柳清はダイセイコーを立ち上げたときから会社を大きく成長させていこうと決意していました。そのためには「会社はどこそこです」と言えば誰にでもわかる場所で、どこに行っても通用する場所である必要があったのです。

「銀座」は日本の中心

青柳清は26歳の時、初めてハワイへ行きました。その時、色々な人と話をしましたが日本の中で誰もがわかる場所が東京の銀座でした。

「銀座なら世界のどこへ行っても通用する」「日本の中心は銀座だ」

と実感したのです。

全国商店街振興協会の調査によると「銀座」の名称のつく商店街は全国に300か所以上、47都道府県のほぼすべてにあるほどで東京・銀座の知名度の高さを証明しています。また元横綱の白鵬は、将来、自分の相撲部屋を持つならどこへ、と問われ「出来たら銀座に。世界中の人が知っている場所だから」と答えました。

この白鵬のエピソードは青柳清の思いとも重なります。

青柳清が東京・銀座にこだわる理由は、ほかにもありました。それは東京・銀座に本社を構えることで社員に誇りが生まれ、社員のモチベーションも上がることが期待できるからです。加えて東京・銀座の本社なら銀行をはじめ、取引先の信用も格段に違ってきます。

青柳清は自分が創始した「スポーツ吹矢」は必ず「生涯スポーツ」「国民的スポーツ」の一つに育つ、と確信していました。

誰にでも楽しめて健康になれるからです。すから、その魅力を早く、全国の老若男女に知っていただこうと「銀座生まれのスポーツ」を特長の一つにしたのです。(以下、次号)



「スポーツ吹矢」の発祥地、東京・銀座の練習場で的に向かう青柳清
(ダイセイコー社内報2013年9月号表紙から)